

平成31年度 学校経営計画

練馬区立石神井西中学校
校長 松丸 晴美

1、学校経営の理念

- I どの生徒も磨けば輝く宝である。その生徒の良さを発見し、伸ばすための効果的な指導の役割を担うのが教師である。
教師の言動は、生徒の将来にわたって大きな影響力を及ぼすことを自覚し、一人一人の教師が、敬愛され信頼される教師となるために、日々研鑽を積み、専門性と人間力を高め、組織的に教育活動にあたる。
- II 常に社会の動向を注視し、時代の要請や変化とともに教育内容や方法を絶えず刷新しながら教育計画を策定し、実践する。
- III 組織の和を重んじ、良き伝統は受け継ぎ、課題解決や改善に向けては、迅速かつ組織的に対応する。

2、学校の校訓・教育目標

豊かな人間性と自ら考え主体的に判断して行動できる力、国際社会の中で貢献できる人間力の育成を目指して校訓と教育目標を設定し、具現化に向けた教育活動を推進する。

- 校 訓 「 叡智 健康 自治 共生 」
- 教育目標
- 健康で自主性に富み、実行力のある生徒
 - 自由と責任を重んじ、規律ある生活を送る生徒
 - 仕事と勉強にうち込む生徒
 - 自分や友達を大切にし、よい集団を育てる生徒
 - ◎ 国際的な視野をもち、人との共生を図る生徒（重点目標）

3. 目指す学校の姿

◇社会の激しい変化とグローバル化が一層進展する世界の中で、自ら考え、主体的に判断して行動できる力と国際社会の中で貢献できる人間力の育成を目指す学校

4. 育てたい生徒の姿・目指す教師の姿

【生徒】

- ◇夢や志を持ち、自分の可能性に挑戦し、努力し続ける生徒
- ◇心身の健康づくりに努め、自他を大切にし、思いやりの気持ちをもって行動する生徒
- ◇自治の精神を基調に、規律ある学校づくりに主体的にかつ協働して取り組む生徒
- ◇国際的な視野をもち、社会に貢献しようとする意欲や態度をもつ生徒

【教師】

- ◇生徒の心情を深く理解し、自己実現に向けて共感的に寄り添い、労を惜しまず支援する教師
- ◇学習指導や生徒指導などの専門性を磨きながら、自ら手本を示し、指導者として努力し続ける教師
- ◇社会の動向を注視し、学校運営への参画意識をもちながら、主体的かつ組織的に職務を遂行する教師

5. 期待する保護者・地域社会の人々の姿

- ◇我が子のしつけを責任もって行い、社会性の育成に向けて学校と連携・連絡を密にして共育する保護者
- ◇学校に建設的な意見を述べ、積極的にボランティアとしてかかわる保護者
- ◇生徒を我が子と同様に温かく見守り、声をかける保護者・地域社会の人々

6. 目指す学校・生徒・教師の姿を具現化するための中期経営目標と達成するための基本方策

人間尊重の精神を基盤に、生涯学習の基礎を培うという視点に立って、以下の事項を柱にして、教育活動を推進する。

具体的な取組、達成目標を個々に設定（自己申告書に記載）するとともに、各分掌・学年・特別委員会、教科等のチームで共通理解を図りながら、具体的な方策・取組や目標指標を設定し、個々の責任・役割を果たし、組織的に校務に取り組む。

学校経営の基本となる7本の柱（グランドデザイン）

A：豊かな心の醸成

- ① 「特別の教科 道徳」を要とし、全教育活動を通して互いの生命や人権を尊重し、相手の身になって考え行動する力、思いやりの心を育てるとともに生徒が道徳的価値について理解し、実践する態度を育てていく。
- ② 学年・学級活動、学校行事、道徳授業、部活動などを通して、規範意識を高め、規律ある集団づくりをしようとする心や態度を育てる。
- ③ 学年・学級活動、学校行事や部活動、スポーツ活動などを通じて、他者との協働や公正さ、公衆道徳を重んじる態度を培う。

B：確かな学力の定着・向上

- ① 生徒の主体的・協働的な学びを促進する多様な学習形態や指導方法を工夫し、言語活動を充実させるとともに、思考力・判断力・表現力を伸長する。また、指導と評価の一体化を図り、補充指導等を通して基礎的基本的な学習の確実な定着を図る。
- ② 学年の実態に応じて、家庭学習習慣の形成を図る取り組みを推進するとともに、各種検定試験等を活用し、高い目標に向けて努力する姿勢・チャレンジ精神を育む。

- ③ 「特別の教科 道徳」の授業を通し、考え議論する力を伸張する。

C：自立に向けたキャリア教育の推進

- ① ゲストティーチャーの講話や職場体験学習などを通し、中学校での学びと職業を結び付け、望ましい勤労観・職業観を確立させる。また、将来必要とされる能力育成のための学習意欲を高める。
- ② ボランティア体験や社会福祉施設での体験学習等を通して、共生社会の実現や社会貢献について考え行動する力を養う。
- ③ 体験的・課題解決的な学習や外部人材を活用し、自己の生き方について考え、主体的に希望進路の実現を図ろうとする力を高める。

D：自己指導能力の伸長

- ① 全教育活動を通し「時を守り、場を清め、礼を正す」の理念を実践する力と目標を設定し、実現に向けて挑戦する意欲や態度を培う。
- ② 自治の精神を基調にし、生徒会活動や学年・学級活動、学校行事、部活動などを通し、自主的自律的な態度と自分の役割を責任もって果たそうとする態度を養う。
- ③ JRC 委員会を中心とし、青少年赤十字の精神を基調とした国際理解やボランティアに係わる学習や活動・各種体験を通して奉仕の精神や豊かな人間性・社会性を育てる。

E：心身の健康と体力の増進

- ① 運動・スポーツ活動を通し、豊かなスポーツライフの基礎を培う。
- ② 新体力テストや小中一貫教育を活用し、保健体育の授業・部活動などを通して、発達段階に応じた基礎的な体力や運動能力を向上させる。特に、投力・持久力を伸長させる。
- ③ オリンピック・パラリンピック学習やゲストティーチャーを招聘した講演会、体験等を通し、障害者スポーツやそれを支える人たちへの理解を促進する。また、保健体育・技術家庭・特別活動と関連付け、望ましい食習慣の形成や健康増進に対する興味・関心を高める。

F：国際人となる資質の育成

- ① 日本の伝統・文化に対する理解を深める授業や教育活動等を通し、我が国の良さを知り、郷土を愛する心や態度を培う。
- ② 全教育活動を通してオリンピック・パラリンピック学習を行い、その精神や歴史・意義を知り、他国の伝統・文化や他国の人を尊重する心や国際社会の一員として、社会に貢献しようとする意欲や態度を醸成する。
- ③ 授業や課外活動等でのALTの効果的な活用と学校行事などの内容を工夫し、英語でコミュニケーションを図ろうとする意欲を喚起しながら、実践的な英語活用能力を向上させる。

G：安全・安心で、保護者・地域に信頼される学校づくり

- ① 安全管理を徹底し、校舎内外の美しい環境整備を図るとともに、特別支援教育の視点にたった校内や学級の掲示物等の整備を行う。また、普通教室の整理整頓・美化に努める。
- ② 適切な学校情報の発信と学校評価を活用し、学校運営の改善を推進する

- ③ 計画的な安全指導、避難・防災訓練を通し、危機回避能力を伸長させる
- ④ 練馬型小中一貫教育を通して、9年間を見通した効果的な学習・生活指導を行う

7. 今年度の取組の重点

◇学習指導について

- ①石西メソッドとローテーション道徳を取り入れた道徳授業を実施するとともに、評価の方法等について検討し実践に生かす。生徒が道徳的価値について理解し、実践する態度を育てていく。
- ②思考力・判断力・表現力を高めるために、授業内容や教材、指導方法等を工夫する。
- ③適切な宿題と課題を提示し、各学年の実態に応じ家庭学習の習慣を身に付けさせる。
- ④補充指導等を工夫し、基礎・基本の確実な定着を図る。

◇生活指導について

- ①話を聞く態度を素早くつくり維持する、声に出して挨拶できる、服装を整える（式服の着こなし）、バッチを毎日着用する、時間を守るなどの基本的な生活習慣の定着と規律ある集団行動ができる生徒を育てていく。
- ②思いやりの心や相手の身になって考え、行動できる力を高める。
- ③場に応じた言葉づかいや返事がきちんとできるようにする。

◇特別な教育支援について

- ①SC や SSW r、子ども家庭支援センターなどの関係諸機関と連携し、不登校生徒の出現率を減少する。
- ②特別支援教育コーディネーターのリーダーシップのもと、保健・生徒支援部を中心に巡回指導教員、特別教室専門員、巡回心理士との円滑な連絡・連携を行い、発達障害等に起因する特別な教育支援を要する生徒に対し、効果的な支援方法を検討し実施する。また、学校生活支援員や臨時支援員等を活用し、学習・生活面での生徒支援にあたる。

◇オリンピック・パラリンピック教育の推進について

- ①「国際理解」と「障害者・高齢者理解」「ボランティアマインドの醸成」に力を入れ、2020年以降の「オリパラ学習レガシー」を意識した特色ある教育活動を実施する。
- ②オリンピックやパラリンピアンを招いた講演会を行う。
- ③国際コンシェルジュを活用し、留学生・JICA 派遣者などを招き、他国の伝統・文化の理解、他国の学生等との交流活動を進める。
- ④オリンピックやパラリンピック大会を支える人たちについての理解を深める。
- ⑤青少年赤十字（JRC）委員会を核にした国際理解とボランティアに関する学習・活動を推進する。吹奏楽・将棋・ハンドメイド部等による地域ボランティア活動を継続する。

◇その他の特色ある教育活動について

- ①学校支援コーディネーターを活用した英語検定試験・漢字検定試験、放課後ステップアップ教室を継続する。
- ②関町図書館の授業・放課後の有効活用を継続する。
- ③理数型校外学習を継続する。2年生については、修学旅行と関連付けた平和学習を行う。

柱	重点目標	担当分掌	成果指標（ ）は昨年度	
			教師	生徒（保護者）
A	① 思いやりの心や相手の身になって考え、行動できる力を高める ② 場に応じた言葉遣いや返事ができる ③ 学年や学級の活動を通し、リーダーシップを発揮する生徒の育成と良きフォロワーシップの醸成を図る	生活指導部 各学年・学級	・肯定的評価85% (67.9%) ・肯定的80% (74.1%) ・肯定的評価90% (新規)	・肯定的評価92% (90.6%) ・肯定的評価95% (91.8%) ・肯定的評価90% (新規)
B	① 補充指導・基礎・基本の確実な定着 ② 思考力・判断力・表現力を高める授業を行う ③ 家庭学習習慣を形成する(テスト前の学習に重点) ④ 教科道德の授業を通し、考え議論する力を伸張する	教務部	・肯定的評価80% (71.4%) ・肯定的評価90% (89.3%) ・肯定的評価70% (51.8%) ・肯定的評価90% (新規)	・肯定的評価80% (79.2%) ・肯定的評価85% (83.6%) ・肯定的評価70% (65.3%) ・肯定的評価80% (新規)
D	① あいさつができる(声に出す。無号令でおじぎ、授業始終の礼) ② バッチを毎日着用する ③ 制服をきちんと着こなせる ④ 時間を守る(授業・朝礼・集合) ⑤ 話を聞く体制を素早く整え、最後まで維持する	生活指導部	・肯定評価85% (75.0%) ・肯定評価85% (81.3%) ・肯定評価98% (92.6%) ・肯定的評価90% (82.1%) ・肯定的評価80% (60.7%)	・肯定的評価85% (83.1%) ・肯定的評価85% (83.0%) ・肯定的評価98% (97.0%) ・肯定的評価95% (88.7%) ・肯定的評価85% (79.5%)
F	① オリンピック・パラリンピック学習を推進し、日本及び他国の理解、人・文化・伝統等を尊重する態度や心を育成する。 ② 障害者スポーツへの理解やそれを支える人たちへの理解を深める。	生涯学習部 保健体育科	・肯定的評価97% (96.4%) 肯定的評価90% (85.7%)	・肯定的評価90% (88.7%) ・肯定的評価90% (83.5%)
E	① 体力(投力・持久力)向上を図る。 ② 給食や食に関する学習等を通し、食に関する関心を高め、健康増進の意欲を伸張する	保健体育科 総務部	・肯定的評価90% (88.5%) ・肯定的評価80% (新規)	・肯定的評価90% (81.0%) 肯定的評価80% (新規)

F	① ALTや校外学習（TGGW）等を活用した英語でのコミュニケーション意欲を高める。 ② 実践的な英語活用能力を向上させる。	生涯学習部 英語科	・肯定的評価95% （96.4%） ・3年生英検資格取得 80%以上（新規）	・肯定的評価80% （71.3%）
D	① 生徒会活動・学校行事などを通して、自主性や責任感を伸長する。 ② JRC 委員会を中心にボランティア活動等を行い、社会に貢献しようとする意欲や態度を醸成する	生活指導部 生涯学習部	・肯定的評価98% （96.4%） ・肯定的評価90% （85.7%）	・肯定的評価80% （78.6%） ・ボランティア参加生徒 延べ70% （60.2%）
G	① 生徒理解と適切な支援 SCや関係機関との連携 ② 特別支援教育の理解と充実 ③ 校内掲示物・教室環境整備	保健・生徒支援部 総務部	・不登校生徒出現率 在籍数の2%以下 （2.97%） ・肯定的評価80% （新規） ・肯定的評価90% （83.1%）	1年 3.7%（7人） 2年 3.8%（9人） 3年 1.4%（3人） ◇参考 1年 H, T, K, k, Y, k, O 2年 M, A, M, N, H, I, N, A, E
教職員	① ホームページや学年だより等による広報を適切に行う ② 地域の祭礼等のパトロールに参加する ③ 服務事故の徹底防止と個人情報の管理徹底 ④ 「道徳」の研究成果を実践し、適切な評価の在り方について検討実践する ⑤ 小中一貫教育研究グループの取組を通して小学校への理解を深め、小中9年間の接続を意識した生徒指導・学習指導を実施する ⑥ 自ら研鑽し、専門性の向上・教師としての資質向上を図る ⑦ 自らの働き方について振り返り、効率的・効果的な仕事の進め方を工夫し、長時間在在を改める ⑧ 部活動のガイドラインに沿った運営に努める	全教職員	① HP毎日更新、学年だより週1回 （100%） ② 年1回は参加する （100%） ③ 服務事故ゼロ 机上の整理・整頓 （96.4%） ④ 全教職員が当事者意識をもって取り組む （100%） ⑤ 挨拶運動、サミット、校区别協議会 （71.4%） ⑥ 自己申告 （67.9%） ⑦ 月2回定時退庁 ・平日の在校時間 週60時間以内 ⑧ 年間ならして、平日、休日各1日の休養日設定、活動約2時間	・学校評価95% （93.9%）

8. いじめ・体罰への組織的な対応

- ①学校いじめ対策推進委員会を中心として、いじめの未然防止、早期発見、早期対応・解決を目指した取り組みを「石神井西中いじめ対策基本方針」として定め、全教職員が保護者や学校関係者と一体となって、いじめの根絶に努める。
- ②教職員が、「体罰は、人権侵害である」との認識にたち、日頃から研鑽を積んで指導力を磨き、相互に体罰を許さない学校風土を醸成する。
- ⑨ いじめや体罰のない学校の実現に向けて、校長の示す学校経営計画に基づき、副校長、主幹教諭、学年主任を核にして、全教職員が情報共有と指導に対する共通理解を図り、問題や課題解決に向けて組織的にかつ遅滞なく対応する。
- ⑩ 毎月の「いじめに関するアンケート」を工夫して行い、スクールカウンセラーやふれあい相談員を活用しながら、いじめの早期発見・解決に努める。
- ⑪ 悪質ないじめについては、警察等と連携しながら再発防止に向けて取り組んでいく。
- ⑫ 石神井西中 SNS ルールを見直し、インターネット等を活用したいじめの防止に努めるとともに、セーフティー教室や情報モラル教室を通して、保護者や関係機関と連携したトラブルの未然防止・解決に努める。